



中屋 桂子 さん (大正)

若い世代の子たちにも、ボランティアのやりがいを感じてもらいたい!

ランナーたちの間でも人気が高い「第6給水所」で元気におもてなしをするのは中屋さん。

「私は走れないけど、力になりたいと思ってそれでスタッフに」。第1回大会から、その明るい人柄でランナーを元気づけ、過去には事務局の許可を得て、ぜんざいや文旦、梅干しを自ら準備し提供したことも。

「この町に来て走ってくることがうれしい!」と声ははずませます。「体力が持つ限り続けるけど、若い子にも体験してもらいたいね」と、先を見据えた話をしてくれました。



前田 寿亮 さん・マツミ さん (地吉)

スタッフをやったら元気がもらえる。ランナーとの交流も生まれて楽しい!

四万十川ウルトラマラソンのボランティアを20年以上務め、表彰されたこともある前田夫婦。桜マラソンでは当初、ゴール前で応援していたが、もっとランナーを元気づけたいと思い夫婦で給水所のスタッフへ。

「頑張って走る人の姿を見よったら、逆に元気をもらう。わしらみたいな年寄りにはスタッフはもってこいや!」とうれしそうな寿亮さん。

事前に参加者名簿で名前を調べて応援したり、今ではランナーと年賀状のやり取りをするなど、マラソンを通じた交流が生まれています。



武市 富美恵 さん (新開町)

自分たちも楽しんでいるから、ボランティア活動だって長く続く!

第1回大会からボランティアとして大会を支える武市さん。現在は、四万十町商工会女性部、窪川支部長としてスタート会場の給水係の責任者を担っています。

「自分たちの体で協力できることは、何でもやろうねって。それで町が盛り上がるなら」と武市さん。「自分らも楽しんでやるし、来てもらった人には、『楽しかった、おいしかった、いいところやった』って言ってもらいたい」。このおもてなしの心が、長きにわたってランナーを支える原動力となっているようです。



中平 伸幸 さん (古市町)

1人では絶対に走れない。応援とボランティアの力は大きい!

四万十町を代表するランナーの一人である中平さん。第1回大会から現在まで連続出場しており、入賞経験もある実力者です。

そんな中平さんも、レース中は我慢の連続。辛い時、力になるのが声援で、「沿道の応援は温かい。ボランティアさんがいるから、こうやって毎年走らせてもらってます。だからいつも感謝の気持ちで走ってるんです」と。「応援がなかったら、辛くてあんなに走れませんよ」と優しく微笑む姿に、ボランティアへの感謝の気持ちがあがりました。

桜が結ぶ、それぞれの想い。 支える力と走る喜び。

桜マラソンを支える人、そして走る人。それぞれの視点から語られる桜マラソン。「支える力」と「走る喜び」が、未来へとつながる理由。そんな想いを聞いてきました。



林 久美子 さん (十和川口)

ラン友と走れる喜び、途中の苦しさを分かち合いたい!

45歳の時にマラソンを始め、これまで県外の大会にも多数参加してきた林さん。

「この大会は、桜並木、四万十川、沈下橋と三拍子そろったコース設定が最高!」と魅力を語ってくれます。「沿道の皆さんやスタッフの皆さんの応援に支えられ、これまで続けてこれたことに感謝しています」。

今後も体が悲鳴をあげるまでは、「懲りずにエントリーして、スタート地点に立つことが唯一の目標です」と控えめに話してくれました。

四万十川とどろき太鼓

疲れはするけど、太鼓の音を鳴り止ませるわけにはいかない!

迫力ある力強い演奏でランナーを盛り上げるのは、「四万十川とどろき太鼓」の皆さん。

代表の武政幸美さんは、「太鼓でランナーを応援し、大会を盛り上げたいと思って毎年参加しています」。メンバーも毎年この応援を楽しみにしているようで、「太鼓の音がランナーの力になるのなら、叩き続けたい!」そんな思いで参加しているといいます。

メンバーの子どもたちも、ランナーとの交流を通じて、そのやりがいを実感しているようです。

フェアリー ピッタ ジャズ オーケストラ FAIRY PITTA JAZZ ORCHESTRA

屋外での演奏はキツイけど、ランナーのリアクションがうれしい!

大正中学校音楽部と四万十高校音楽部で結成する「フェアリー ピッタ ジャズ オーケストラ」。心地よいジャズのメロディーがランナーを励まします。

四万十高校音楽部の安岡のどか先生にお話を聞くと、屋外ならではの苦労もあるようです。「普段よりしっかり吹かないと音が届かないんです。それに雨や風も…」と、過酷さがうかがえます。ただ「ランナーが演奏に応じてくれることがうれしい」と、普段の演奏会とは違った雰囲気、みんなで楽しんでいるようです。

感謝を込めて、これからも走り続ける。
第1回大会から今日まで回数を重ね、当初の大会目的は「定達成されたのかもしれない」。
ただ、人との出会いや交流、親睦というものには、達成という名のゴールはありません。継続して開催することで、毎年新たな出会いや交流が生まれ、「感動」も生まれます。
変わる時代の中で、変わらぬ想いを未来へつなぐために、多くの方々の感謝に支えられ、「桜マラソン」はこれからも走り続けます。

